
2017年度 第2回 音環境運営委員会 議事録（案）

記録：石塚，富来

A. 日時 2017年10月18日（水）17時00分～19時00分

B. 場所 建築学会 304 会議室

C. 出席者 古賀貴士（主査），池上雅之，石渡智秋，大嶋拓也，佐久間哲哉，坂本慎一，田中学，富高隆，羽入敏樹，平光厚雄，山内崇，石塚崇（幹事），富来礼次（幹事）

欠席者 漆戸幸雄，岡野利行，川井敬二，田中学，富田隆太，佐藤洋，濱田幸雄，中澤真司（敬称略）

D. 提出資料

資料 2-0：2017年度第1回音環境運営委員会議事録（案）

資料 2-1：2017年度第2回環境工学本委員会資料

資料 2-2：細分類・細々分類（案）

資料 2-3：2018AIJ-OS タイトル及び主旨（案）

E. 議事記録

1. 前回議事録の確認

- ・修正事項：4. (7) 「法令集」→「2007年第60回音シンポジウム資料で示された『音環境に関する法規制・規格・基準の現状』
- ・以上を修正して承認

2. 環境工学本委員会報告（資料 2-1）

- ・刊行関係について。2016年度出版物販売状況の確認。
 - ⇒「音環境の数値シミュレーション 波動音響解析の技法と応用」について在庫 0 のため，増刷するか検討してもらう。
 - ⇒「集合住宅の音に関する紛争予防の基礎知識」は順調な販売。
 - ⇒「はじめての音響数値シミュレーションガイド」（コロナ社）は 500 部増刷の予定あり。
 - ⇒「実務的騒音対策指針」の改訂の要否について，企画・広報 WG で議論してほしい（古賀）。
- ・2016年度講習会・シンポジウム等開催結果の確認。関連シンポジウムは全て黒字であった。
- ・2018年度委員会活動計画案・予算原案および関係書類提出の依頼について。音環境運営委員会分は提出済み。
- ・竹中育英会建築研究助成交付金交付者報告。環境工学から 2 件。音関係はなし。
- ・鹿島学術振興財団研究助成は申請書が 10 月 12 日（木）17 時（必着） まで。
- ・今年度大会学術講演会の発表題数について。環境工学は近年増加傾向。
- ・来年度大会（9/4-6，東北大）準備日程について説明。11/20（月） OS の提案締切。4/4（水）電子投稿締切。
- ・AIJ 新国際英文ジャーナル：Japan Architectural Review への投稿の呼びかけがあった。
- ・委員会の統廃合について。環境工学分野は特に動きはない。
- ・女性会員の参画機会の拡大について。協力の要請があった
- ・刊行企画書・刊行計画書について。書式の変更あり。
- ・支部活動報告。詳細は資料（No. 2-17）を参照。
- ・建築学会教育賞候補について。昨年度に引き続き九州支部と連名で藤本一寿先生を推薦した。
- ・来年度大会について，オーガナイズドセッション，研究発表部門細分類・細々分類の検討依頼。詳細は審議事項にて

- ・来年度大会研究協議会案（仮）「情報化をもたらす建築及び環境分野の変革」
- ・来年度大会研究懇談会テーマについて。留学生の協力を仰いでめざすべき将来のために大学、学会がなすべきことを議論する予定。
- ・本年度予算執行状況の確認。計画的な消化の依頼。

3. 審議事項

(1) 若手優秀発表賞の審査（回収資料）

- ・審査結果を配布し、確認
- ・主査・幹事より、4名の候補を提案があり、候補者について承認された。
 - ⇒3日間の採点者の偏りは大きくなかった。
 - ⇒採点者の分布は◎1割、○5割、△4割、昨年度とほぼ同様
 - ⇒採点者の人数と評点との相関は大きくない
 - ⇒受賞者は15名以上に評価されている→選定には影響がないが標準偏差の値に疑問、再計算予定
- ・来年度の採点方法について、原則聴講した発表は採点するものとし、「特段の意見なし」→“ ”（ブランク）とは記載しない。

(2) 2018年度大賞の推薦候補について

- ・音環境運営委員会から安岡先生を推薦することが提案され、承認された

(3) 2018年度大会オーガナイズドセッションについて（資料No. 2-3）

- ・測定法小委員会担当による「建築音響に関する測定法の現状と課題」の提案があった
- ・資料にもとづき山内測定法小委員会主査より主旨説明
 - ⇒選抜梗概を数名に打診し、一部内諾が得られている旨説明があった
 - ⇒「非常に幅広い内容で、広すぎると想定外の発表者からの応募が危惧される」「小委員会の今後の活動内容に沿ったものの方が議論は深まるのではないか」等の意見があった
 - 前回測定法小委員会担当OS「建築音響に関する測定法の最近の動向」をふまえたタイトルとした
 - ⇒建築音響は全般的な内容か、床衝撃音や空気音遮断性能がメインか
 - 基本的には広く考えている
 - ⇒「現状」か「新しい」等ではないのか。「課題」だけでなく「将来展望」等もあり得るのでは
 - 「新しい測定法」の紹介と「今後の展望」も入っている
- ・方向性については承認された。ただし、タイトルと趣旨説明については、小委員会内で再検討し、メールで報告することとなった

(4) 2018年度大会：細分類・細々分類、英語表記（資料No. 2-2）

- ・英語表記を追加することが必要。資料にもとづき主査より提案があり議論をした。主査より再提案し、メール審議することとした。

（以下意見：室内はroomなのかindoorなのか。音環境はEnvironmental Acousticsなのか、Sound Environmentなのか。Computational MethodsだとMethodだけが対象に感じる、Numerical simulationではどうか。日本語の分類もこのままでは難しい。細分類を「indoor」「outdoor」「building Acoustics」と分けてしまえばよいのではないか。）

4. 各小委員会・WGの活動報告

(1) 固体音小委員会

- ・欠席。

(2) 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会

- ・8/22 に第 2 回開催。鉄道騒音の測定方法として、 L_{ASmax} の優位性を検証するために、各委員から分析結果を提供してもらい審議した。2018 年度の委員会活動計画についても審議した。次回 12/1 予定。
- (3) 建築音響測定法小委員会
- ・7/6 第 2 回, 9/7 第 3 回開催。會田委員より 4 月の音響学会建築音響研究会で発表した音響エネルギー密度による界壁の空気音遮断性能評価に関する研究を紹介, 協議。今期以降の活動内容, 来年度 OS を協議。次回 11/9 開催予定。
- (4) 室内音響小委員会
- ・9/12 第 2 回開催。室内音響の研究を活かした啓発活動の企画を検討。ドイツの規格(DIN 18041 : 一般的な建物の室内環境の規格)について議論。次回 : 11/24 開催予定
 - ・スピーチプライバシーWG : 来年 7 月に AIJ-ES 作成申請を出すための検討中。
 - ・インパルス応答予測・計測 WG : STI 算出方法を検討。ベンチマークを作成し HP で公開する方向。
 - ・子供のための音環境 WG : 保育施設の音環境指針について検討中。
- (5) 音響数値解析小委員会
- ・9/29 第 2 回開催。株式会社ニューズ環境設計福島氏より, 騒音伝搬モデル作成のためのリファレンスとしての数値シミュレーションの利用という内容でご紹介頂いた。境界条件データ整備としてのカーペットの音響管測定結果について審議。岩綿吸音板を測定対象に追加する為, 測定条件等を審議。来年度の活動計画について審議。次回日程は未定。メール審議により決定する。
- (6) 音環境規準検討小委員会
- ・6/7 第 1 回, 7/24 第 2 回, 10/5 第 3 回開催。スピーチプライバシーAIJ-ES 作成準備状況を確認。来年度刊行小委員会申請を目標とする。集合住宅について, 昨年度に引続き以下の各小委員会主査に協力を要請し, 内諾を得た。固体音小委員会 : バングマシンとボールの互換性検討, 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会 : 鉄道騒音の評価法, 建築音響測定法小委員会 : A 特性評価による遮音性能評価の可能性。正式依頼は, 期日を来年度末として音環境運営委員会から行う。ISO717part2 に規定される予定のゴムボール衝撃源に関する文献の調査を今後進める方針。複合施設については, 集合住宅についての課題を解決した後に取り掛かる方針。次回 12/21。
 - ・学校施設改定準備 WG : 本年度終了予定。フォーマットを修正。保育園, 幼稚園への拡充等改定方針を決定。WG ドラフトを作成中。次回 12/20。
- (7) 企画・広報WG
- ・6/13 第 2 回, 8/24 第 3 回開催。『音環境に関する法規制～の現状』改訂について, 前回 60 回音シンポ (2007 年) 以降の新たな動向 (低周波音問題, 騒音ラベリング制度, 風力発電施設等) を反映させるため情報収集を行っている。各項目について, 詳細を資料に記載するか, Web から最新情報を得る方法の記載に留めるかを整理。今後, 各 SWG (外部騒音, 設計目標値, JIS/ISO 動向) で議論を進める予定。建音検索のメンテナンスは, 各学会 (AIJ, ASJ, INCE-J) の担当者を決定し, 今後更新準備を進める。次回 10/25。
- (8) 住まい方マニュアル刊行小委員会
- ・10/16 開催。原稿案に対して, チェックを依頼した坂本先生, 橋本先生から頂いたコメントへの対応を協議。今回のマニュアルの主眼は「騒音問題の予防」とすることを確認 (橋本先生からのコメント「予防と紛争解決のどちらを主眼とするか明確にした方が良い」への回答)。序文で位置付けを明確に述べる予定。11 月末を目途に原稿を修正する予定。

5. 他学会・研究会の予定

(1) 日本音響学会・建築音響研究会

・ 11/22@茨城大, 12/7@久留米シティプラザ

(2) 日本音響学会・騒音振動研究会

・ 11/28@積水ハウス総合住宅研究所, 12/12@小林理研

6. その他

・ 次回 : 11/28 17:00～